

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センターあんま担当圏域レベル）

開催報告書

1 開催日時	令和 8 年 2 月 19 日（木） 13 時 30 分 ～ 15 時 30 分
2 開催場所	天竜協働センター ホール
3 参加者	26名
委員16名（蒲地区：6名、和田地区：4名、中ノ町地区：6名）、関係機関7名、事務局3名	
4 協議の内容	<p>1. 開会 会長よりあいさつ。</p> <p>2. 前回の振り返り 前回会議の振り返り、今年度の進め方、本会議のテーマ及び進め方について事務局より説明。</p> <p>3. 情報提供『「家事支援ぬくもり」の活動に関する取材報告』 事務局より情報提供を実施。</p> <p>4. 協議事項 協議（地区別グループワーク） テーマ：情報提供を踏まえて感じたこと、今後考えられる取り組みについての検討</p> <p>各グループで挙げられた意見については以下のとおり。</p> <p>蒲地区</p> <p>■蒲地区民児協 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蒲地区社協の家事支援としては、月 1 回の定例会を開催している。民児協では、依頼者の実態把握を目的に民生委員が必ず出席する体制とし、町ごとの当番制で交代参加している。 ・立ち上げから時間が経過し、初期メンバーの高齢化が課題となっている。民児協の OB・OG への協力依頼の意向はあるが、具体的な参加には至っていない。 ・依頼内容は、以前多かった「子育て支援」が減少し、「草取り」「掃除」等が継続している。今後無理のない形で継続していくことが重要である。 ・過去にチラシ回覧を実施したが、現在は停滞している。周知による利用者増加および担い手確保を目的に、再開が必要である。 <p>■蒲地区自治連 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連合会長就任後に本活動を認知した。蒲地区では配食活動なども含め、女性の活躍が地域活動を支えていると感じる。 ・活動の継続が重要であり、自治会としてもまず認知を進め、協力していきたい意向である。ただし、具体的な関わり方は現時点で明確でない。 ・地域では独居高齢者の孤独死が散見されており、本活動は見守り機能としても重要性が高まると考えられる。 ・ボランティアコーナーの電話当番は各団体で持ち回りとなっており、自治会は月 2 回担当する。原則自治会長が対応し、難しい場合は副自治会長が代行する。 ・同ネットワーク経由の家事支援依頼はほとんどなく、多くは民生委員を通じた依頼であると考えられる。

- ・電話当番の対応方法は明確に定められている。

■蒲地区自治連 委員

- ・活動の存在は認識していたが、実態までは把握していない。身近に利用者がいないため、理解が深まっていない。

■蒲地区社協 委員

- ・前任者から利用者の引継ぎを受けており、毎年「草取り」の依頼がある。ただし、即時対応を求められることもあり、協力員への依頼に負担を感じる場合がある。
- ・民生委員の定例会参加は有意義であり、利用者がいない地域の者にとっても実態把握の機会となっている。
- ・電話当番は2時間体制であるが、着信はほとんどなく、活動の必要性に疑問の声もある。

■蒲地区自治連 委員

- ・ボランティアの多くが女性であるため、男性の参加促進も必要である。

■蒲地区社協 委員

- ・10年前にサロン一覧を作成し配布したが、現状と乖離している。定期的な更新が必要である。
- ・今回はA4サイズで作成し、より活用しやすい形に見直すべきである。

和田地区

■和田地区社協 委員

- ・18年間という歴史を感じた報告であった。和田地区では安新町で1月から試験実施を始めた段階であるが少しずつでも踏み出していきたいと感じた。

■和田地区自治連 委員

- ・参考資料である活動報告において、利用者数や支援協力者、延支援協力者の数値を見ると、特定の支援協力者が続けて対応しているか。
⇒(市社協)可能な限り同じ支援協力者が対応するように調整している様子であった。子どもも含め関係性を築きやすくすることを意図していると思われる。
- ・コーディネーターを町ごとに配置しない地区は他にもあるか。
⇒(市社協)他にもあるが、どちらが望ましいというものではないと思われる。例えば町ごとに配置すれば、その後の見守り等にも繋がるが、町ごとに対応件数にばらつきが出て、モチベーションが損なわれる可能性があるなど一長一短あると思われる。
- ・民生委員が関係性の中で(無償で)生活支援を対応している場合があると思うが、家事支援サービスを立ち上げると、今まで民生委員が(無償で)やっていたことが有償になるように捉える方も出るのではないかと思われる。特に話し相手はそのように捉えられるように感じる。
⇒(市社協)生活支援と民生委員活動は必ずしも一致しないことを理解してもらうしかないと思われる。なお、話し相手単独では、他地域でもあまり依頼がないように感じる。
- ・ゴミはどのように回収して捨てるか。
⇒(市社協)依頼者が事前に自宅前のコンテナにゴミを入れておき、それを支援協力員が出して、自身のゴミとまとめて捨てに行く形を取っているケースがあった。タイミングによっては、対面でのやり取りが無い場合もあると思われる。
- ・草取りの場合、そのゴミはどのように捨てるか。
⇒(市社協)そのまま支援協力員が捨てるか、利用者が捨てるか、地域によって異なる。

■和田地区社協 委員

- ・蒲地区にも社会福祉施設が実施している生活支援サービスはあるか。

⇒(包括)特に聞いたことはない。

⇒(市社協)社会福祉施設に限らず、民間企業が蒲や和田地区も対象に生活支援サービスのようなメニューを対応している。ただやはり高額になる。

⇒(市社協)民間企業によるサービスはあるが、費用面の課題がある。

- ・近隣に家族が住んでいる場合は、家族内で助け合うように伝えていくことも大切だと思われる。
- ・周知や宣伝をどのようにしていくか協議を深めていくことが大切だと思われる。

⇒(市社協)他地区でも、長年やっけていても回覧でチラシを見て初めて知ったという方が毎年いるように感じる。

⇒(和田地区民児協 委員)すでに地区民児協で2回ほど周知している。

■和田地区民児協 委員

- ・自身の地域に、車いすのためゴミステーションのカラス避けネットがうまく外せず、ネットの外にゴミを置いてしまっていて、近隣からクレームが来ていた方がいる。その方は一人暮らしで頼れる人がいないため、自身が支援している。

■和田地区社協 委員

- ・見守り機能の強化も重要である。
- ・4月から全町実施に向け準備を進めており、段階的に進めたい。
- ・エリアによってニーズが異なると思われるため、ルールも町ごとに変えて実施したい。
⇒(市社協)ルールはどの程度まで柔軟に変えるか。
⇒(和田地区社協 委員)メニューや料金は変えても良いのではないかと思われる。
⇒(和田地区自治連 委員)メニューは柔軟に対応して良いのではないかと思われる。
⇒(和田地区社協 委員)料金を町ごとに変えると不公平感が生じる可能性がある。

■市社協

- ・蒲地区でも立ち上げ前に他地区の見学に行っていたが、立ち上げ時や検討時に他地区の活動を見学に行く地区は多く見られる。細かいルールだけでなく活動や利用者のイメージが深めやすいと思われる。希望があれば市社協で調整するため、お気軽にご相談いただきたい。

中ノ町地区

■中ノ町地区社協 委員

- ・家事支援ニーズ調査は既に実施済である。一定の需要はあるが、家族間で補われている部分もある。
- ・家事支援か移動支援か、ニーズの整理が必要である。
- ・担い手確保の観点から、ボランティアへのインセンティブ検討も課題である。

■中ノ町地区自治連 委員

- ・アンケートでは「通院」「買い物」のニーズが多い。
- ・免許返納後の移動手段が課題となっている。移動スーパーはあるが、店舗で買い物をしたいニーズも存在する。

■中ノ町地区自治連 委員

- ・拠点がないため、自治会長経由で受付し地区社協へつなぐ方法が考えられる。
- ・担い手、特にリーダーの確保が課題である。

■中ノ町地区社協 委員

- ・介護人材不足により、ケアマネ等が本来業務外の対応を担う場面が増えている。
- ・インフォーマル支援による生活補完の必要性は高いと感じる。

■中ノ町地区 SC 連 委員

- ・近隣関係の希薄化が進み、住民同士の把握が難しくなっている。
- ・助け合いの意識が弱まり、次世代への継承も課題である。

■中ノ町地区民児協 委員

- ・地域のつながりを活かしつつ、無理なく継続できる体制づくりが必要である。
- ・中長期的視点での仕組み化が求められる。

全体共有

- ・各グループでの協議内容の共有

5. その他

①協議体委員報酬の支払いについて

支払いの金額及び時期について事務局より報告。

②協議体委員の任期について

各委員の任期が今年度で満了となることについて事務局より報告。

また、委員の変更が生じる場合は、事務局までご連絡いただくよう依頼。

③次回日程について

日時：令和8年8月20日（木）13：30～15：30

※会場については「東部保健福祉センター」を予定しているが、正式に決まり次第通知文書にてご連絡させていただくことを報告。

5 今後の見通し・
必要な対応

あんま圏域の3地区においては、状況は異なるものの、「家事支援」に対する関心が高まっている。蒲地区では人材確保や体制の刷新、和田地区では次年度からの本格実施に向けた動きが見られるほか、中ノ町地区においても家事支援や移動支援のニーズ検討が進められるなど、各地区で着実に取組が進展しつつある。

今後については、日頃地域で検討されている事項に着目し、協議体会議では各地区の時宜に応じたテーマを取り上げることで、関係団体の活動の参考となる情報提供や協議が行えるよう、意識的に対応していく。